

社会 第6学年 日本の歴史

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。教育出版の年間指導計画にある「室町文化と力をつける人々」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。実施月は公式資料から確定できないため、学校の年間計画で確認する。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。室町期の建造物や絵画を手掛かりに現在につながる生活文化が生まれたことを捉えるというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。建造物の部屋や庭の写真、水墨画、生活文化の解説資料を読み、前の時代との違いと現代に見られる共通点を整理する。文化を支えた人や伝わる過程を年表に置いて考える。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第6学年〕(2)	(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第6学年〕(2)ア(オ)	(オ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること。
〔第6学年〕(2)ア(シ)	(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。
〔第6学年〕(2)イ(ア)	(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

単元の目標

室町期の建造物や絵画を手掛かりに現在につながる生活文化が生まれたことを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((2))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①室町期の建造物や絵画を手掛かりに現在につながる生活文化が生まれたことを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①室町文化と力をつける人々の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

教育出版の公式年間指導計画の該当見出しに全4時間と記載。小単元外の大単元導入は加算していない。各次への配分と本時の位置は本資料の提案。学校の年間計画で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○現代の暮らしとの共通点から問いを立てる。 ○代表的な建物と庭を資料で読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○絵画や生活文化を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3 （本時を含む）	○文化を支えた人々と背景を考える。 ○前の時代との違いと現在へのつながりを整理する。 ○建造物の部屋や庭の写真、水墨画、生活文化の解説資料を読み、前の時代との違いと現代に見られる共通点を整理する。文化を支えた人や伝わる過程を年表に置いて考える。	思①（個人の説明・記録）
第4次	4	○室町文化の特色を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「現代の暮らしとの共通点から問いを立てる」ときの疑問を取り出す。 ○「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・室町期の建造物や絵画を手掛かりに現在につながる生活文化が生まれたことを捉えるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・文化財の画像の利用条件を確認し、宗教的な実践への参加を求めない。価値を豪華さだけで比較しない
展開 （ 分）	○建造物の部屋や庭の写真、水墨画、生活文化の解説資料を読み、前の時代との違いと現代に見られる共通点を整理する。文化を支えた人や伝わる過程を年表に置いて考える。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・文化を支えた人々と背景を考えることで、理由を確かめたい。	・現在と似ているから当時から全家庭で行われたと断定しない。写真の印象だけでなく建物の用途や担い手を公的解説で確かめる ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思①「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】室町時代には、建造物や絵画などに見られる、現在の生活にもつながる文化が生まれた。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「室町文化と力をつける人々」と本時の問い「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。文化を支えた人々と背景を考える際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

現在と似ているから当時から全家庭で行われたと断定しない。写真の印象だけでなく建物の用途や担い手を公的解説で確かめる

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。文化財の画像の利用条件を確認し、宗教的な実践への参加を求めない。価値を豪華さだけで比較しない

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

室町文化と力をつける人々の問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。建造物の部屋や庭の写真、水墨画、生活文化の解説資料を読み、前の時代との違いと現代に見られる共通点を整理する。文化を支えた人や伝わる過程を年表に置いて考える。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「室町の文化には、今の暮らしに続くどんなものがあるだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／教育出版年間指導計画。単元名・配当時間・掲載時期の出典。（https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/shakai/files/r6shakai6_nenkeihyouka_2604.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

